

平成22年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	やや少	やや少
	うどんこ病(防除情報第19号)	多	多
	褐斑病	やや少	やや少
	菌核病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
たまねぎ	白色疫病	やや多	やや多
	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は0.6%(2.9%)、発生圃場率は18.2%(32.1%)であった。

2. うどんこ病

平成23年1月17日付病害虫発生予察防除情報第19号による。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は0.1%(2.7%)、発生圃場率は9.1%(35.7%)であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率5.2%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.1%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.2%)、発生圃場率は9.1%(12.1%)であった。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は1.0%(0.9%)、発生圃場率は27.3%(24.4%)であった。

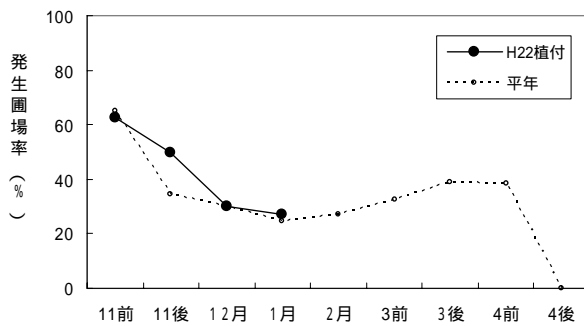


図 キュウリコジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

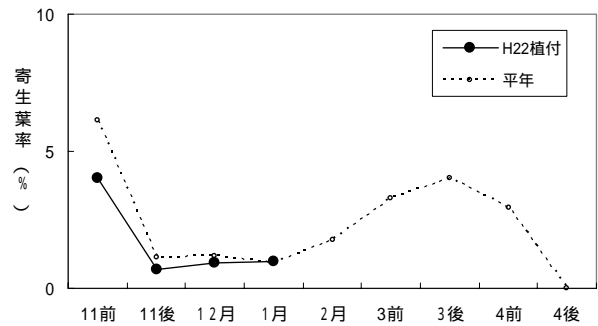


図 キュウリコジラミ類 寄生葉率の推移(巡回調査)

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(過去6ヵ年平均0.3%)、発生圃場率は16.7%(同22.9%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.0%)。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.4%(寄生株率0.9%)、発生圃場率は33.3%(18.8%)であった。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は1.0%(0.0%)、発生圃場率は6.7%(0.0%)であった。また診断依頼においても発生を確認している。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 排水につとめ、過湿を避ける。
- イ 圃場観察を十分行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- ウ 罹病・枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は13.1%(8.4%)、発生圃場率は53.3%(41.2%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.4%)、発生圃場率は3.7%(9.8%)であった。果実での発生は認めなかった(発病果率0.1%)。

イ 病害虫防除員からの報告では、やや少~やや多と地域差が見られた。

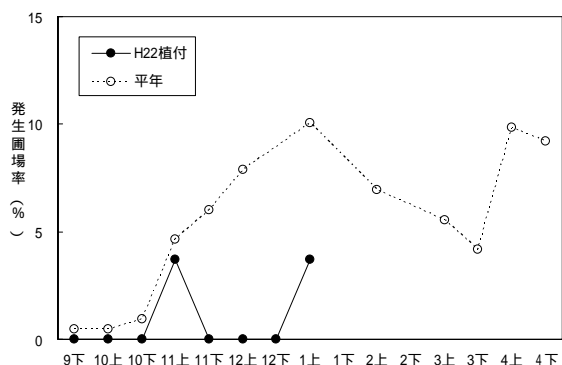


図 いちご うどんこ病 発生圃場率の推移

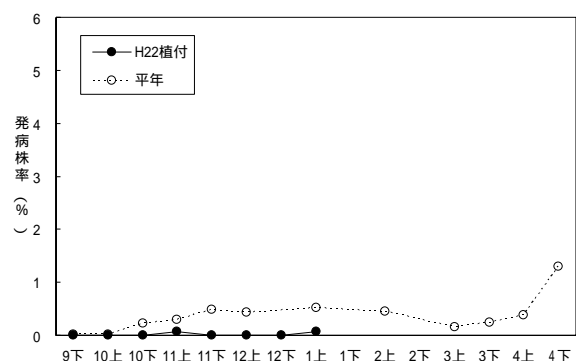


図 いちご うどんこ病 発病株率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(4.3%)であった。

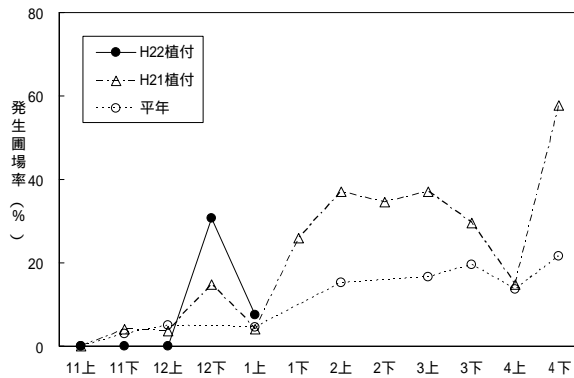


図 いちご 灰色かび病(果実) 発生圃場率の推移

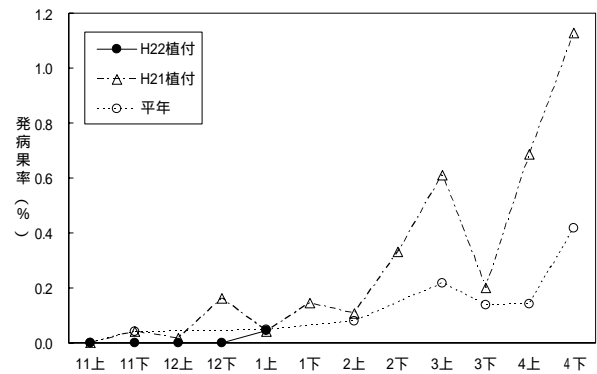


図 いちご 灰色かび病(果実) 発病果率の推移

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(0.8%)、発生圃場率は11.1%(11.3%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.5%(3.3%)、発生圃場率は25.9%(30.9%)であった。

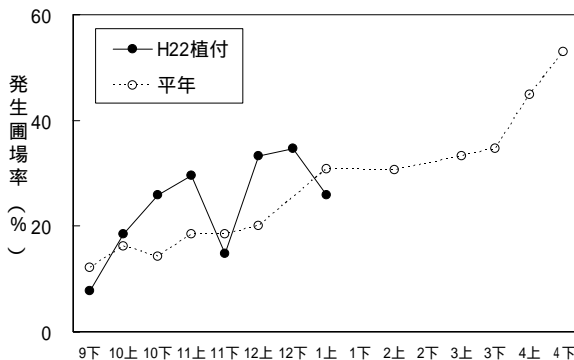


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

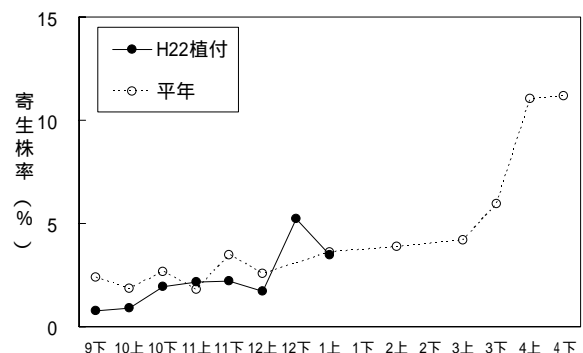


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。

イ 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行なった後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響の少ない殺ダニ剤を活用する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去3カ年平均 発病株率0.1%、発生圃場率2.8%)。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去3カ年平均 発病株率1.2%、発生圃場率2.8%)。

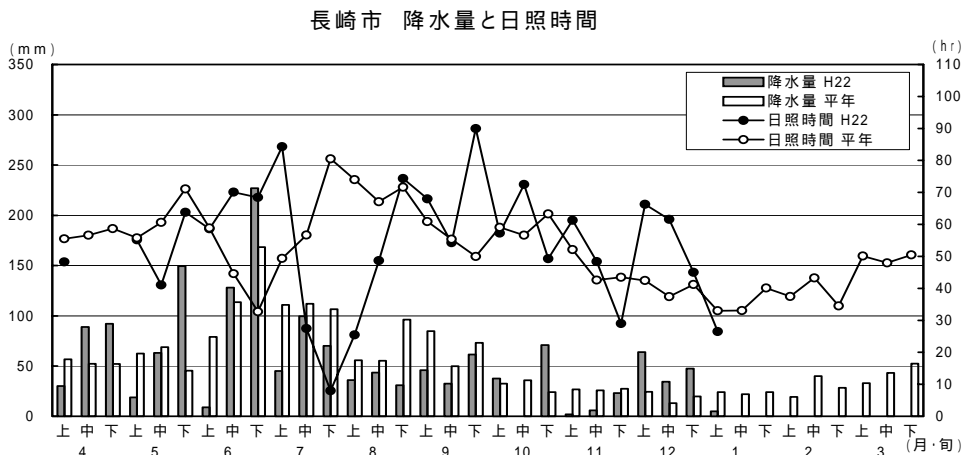
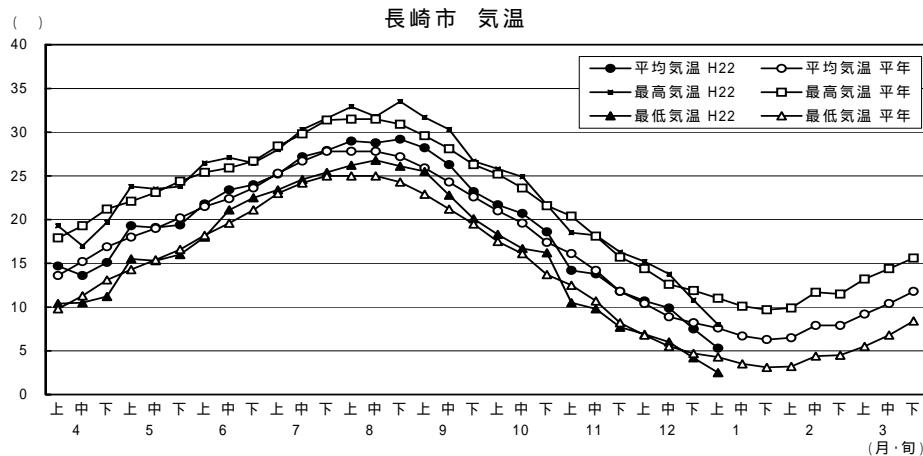
【参考】

気象 (平成23年1月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	70	20	10
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域
平成22年度の気象経過



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027